

# 山とスキー

第五十八號



札幌 山とスキーの會 發行

大正十二年七月七日第三種郵便物認可  
大正十五年二月二十八日印刷局次

大正十五年三月一日發行  
(毎月一回  
一日發行)



◇すまりをて得を讀愛御の下殿宮父秩りよ號刊創は誌本◇

次目號八十五第



卷頭詩

記事

ジャムブ競技の技術的觀察

デイスタンスレースに就いて

— 第四回全日本スキー選手権大會 —

雪庇の生活史

二月の夕張岳

芬蘭のスキー

彙報抄録

寫眞版

シルエツト

三角山附近 (北海道豫選當日)

廣田戸七郎 (一三)

岡村源太郎 (一二)

石内直太郎 (一七)

小森五作 (二三)

今泉剛一 (二六)

坂本彌直

加納一郎

大正十五年三月發行



シ ル エ ッ ト

坂 本 彌 直



吹雪く樹林

無人境の、この山奥の小屋に  
蠟灯の怖えた明りが一つ。

風。

魂も飛んで了ふ凄い風だ吹雪だ。  
谷を黒々と埋める針葉樹林に  
毛布一つにくるまる登山者の群は  
寝もやらず、哀識の聲を忍ばず。

その針葉樹冠に

暗憚たる空から吹きつけられた星群が

きつかりと鎮められて

あやしい光を放つて居るのだ。

目をつぶれど

赫々と燃ゆる黒<sup>ニユツアルツツアルド</sup>林の

風を喰ふ私語が

私達の心をますますく<sup>ニユツアルツツアルド</sup>沓えかへらしめる。

風にもまれて地に敷く銀白の雪が  
キリ／＼と聲を立てて舞つて居る  
その驅り立てられた餘勢は  
戸をがたつかせ 床をゆるがし  
私達の春條に遠い世紀の波動を傳へて来る。

あゝ、原始に人類の開いた自然の讃歌  
山と樹林の眺め盛んなこの夜の饗宴よ。  
盛らるる食卓には毫も獸の匂は許されない。  
雪、寒氣、風。  
そして枝より垂るる、又はしがみつく  
寄生植物 蘚苔類の新鮮な味覺  
だからこそ私達の蠟灯も燃え果てて了つた。

私達の身体は締めつけられる様に  
ひし／＼と苦しい 郷愁オモかげにあへぐ  
「同僚カウライヂよ もう睡つたか」  
あの樹木の星が 風に吹き消える時  
吾々は最早 息をつく生物ではない  
朝の陽に嚴かに手を合す樹林と化すであらう。

# ジャムブ競技の技術的觀察

附 飛距離及び飛型點數の關係

廣 田 戸 七 郎

## 序

ジャムブ競技會に關する單簡な事實は已に公表せられて居りますが、専門化して一步踏み入つて考へて見ますとあの競技を中心にして幾多の研究問題が残されて居ると思ひます。例へば競技用ジャムビンゲヒルとしての樺太のジャムビンゲヒル、競技會と其開催と實行に就て、競技の結果より見たる技術的觀察、競技と競技規定との理論に關して、競技出場とその策戦に關して、一般觀衆のジャムブ競技觀察とスタイルジャツヂの觀察に就いて等、數ふれば誠にもつて論究するに足る問題がたくさんあるのであります。私の希望としては何とかしてさうした種々なるフワクタブをとりへて記述して見たいのであります。私はたゞ今夫等の問題をとりへて細に涉つて論述するの餘暇のないことを遺憾に思ふものであります。

夫故私は現在の我が國のスキー競技界に於て研究の道程にありて、ジャムブ競技を爲しつゝある人、又ジャムブテクニツクの研究を爲さんとしつゝある人々が一緒に考へて然るべき問題の重要な一つの問題をジャムブ技術の研究であると云ふ解釋に立脚して、敢て此問題をとらへて見た譯であります。

而して競技者自身にも亦ジャムブ競技を見物さるゝ人達にも是非知つて欲しいと思ふことが、ジャムブ競技の飛距離及

び飛型點數との關係についての問題であると云ふ意味から、此問題を附加して此稿を纏めたいと思つた次第であります。技術的觀察と申しますと、是亦可成り大きな問題ではありますが、私は餘り問題を大きくせず、あの樺太での競技會での觀察を中心問題として考究を進めたいと思ひます。

## スタイルの相違

流行は時と共に移動して人間の間に喰ひ入り、一人が變つた風をすれば又夫れを眞似て同じ様な服裝を他人はする。然し人間を裸かにして二人並べた時已に其處に相違點を多く見出す如く、同じ容姿の人を捕へて来て同じ服裝をさせたことつても夫れは「同じ様」な服裝であつて決して「同一」にしたとは言へない。まして人間的には相似なりとは呼び得るとしても、同一なりとは云ひ表せない。是が靜止の場合から活動的なものゝ對立比較に到つて益々其相違を見出すであらう。

世界的ジャムバア、ノールウエー Thams Jacob 選手に彼獨特のスタイルがありて、世人は彼を超人的と讚嘆して居る。時代は曆を溯りて見出さずであらう、 Dagfinn Carlsen のジャムプスタイル、彼のストレートボディ的なジャムプスタイル、夫れは已に舊式であるかの如く説いて居る専門家もある。然し彼が、先年迄中央歐羅巴にあつて一派を開き、堅い基礎を中歐スキージャムプ界の間に築いたことから考へるならば、彼のスタイルにも亦獨特の長所を見出すことが出来やう。超人 Thams の「く」の字（便宜の爲この言葉を使ふことにします）型ジャムプスタイルとストレート、ボディ的な Carlsen のジャムプスタイルと何れが優れりとなすか。嘗て寫眞以外に彼等のスタイルを見たことの無い私には、到底輕卒な論斷は出来得ないが、たゞ私は自分の目に映じたフ井ルムの動きと、横に並べられたる活字刷とによつてまづい乍らも書き得る想像と推考とによつて心ばかりの事が云ひ得るに過ぎない。其處には餘りに疑問が存在し過ぎるからである。

技術としての兩者のスタイルを比較して其良否を評すると夫故許して頂きたい。只私は世界の著名なスキー家達が已に數年前 Thams 君の出現によつて、Thams 君のジャムプスタイルに注目し、驚異的觀察を彼のスタイルにまで投じつゝ今



日に及んで居ると云ふ點で、尙又 Evans 君のスタイルに近似的なスタイルで飛びつゝあるが如く見える多くの一流ジャムバアの寫眞を見て、且つは彼のスタイルを讚嘆して居る活字の列よりして、彼のスタイルが多くの人達の焦點となつて居ることを知り、夫れが現代のスキージャムバ界のリードを爲しつゝあることを考へたい。そしてあちらでは餘り多くの視聽を引いて居らぬかの如く考へらるゝ O'Keefe のスタイルをジャムバスタイルの時代的變遷中の一つのスタイルとする程度に止めたいと思ふ。私は敢て舊式と云ふ言葉を用ひたくない。人の觀察が夫々異なる如く且つ未だ世界的一流選手さへも彼式の飛型で飛んで居る人もあり、私自身亦實際兩者のジャムバを目撃して居らぬことも理由の一つである。つまり二つの派を認むることに考へを止めたいと思ふのである。

### 我等のジャムバ技術

世界の動きを引合ひに、我等のジャムバ技術を持ち出すことは餘りに懸隔のあるものを問題にし過ぎるかも知れぬが、私は今度の競技會で少くともジャムバの技術的觀察の立脚點からして、吾等のジャムバ競技界も一段と進歩し、國際的選手の夫れの如き飛型に接近して來たことを觀察し得たと感じたのである。

飛距離の記録に於て世界の平均レベルに達し得ぬことは、如何にも遺憾至極ではあるが、此世界レベルに達し得ぬ理由は何處にあらうか。我が國のジャムバアの技術の貧弱な爲であらうか。適當なジャムピングヒルの無い爲か。何人も無論兩方に欠陥の存在する爲と云はるゝであらう。私も此説に對して否とは抗辯をせぬが、熟々考へて見るに此二つの大きな理由の内、ジャムピングヒルの築造、設備の方は、單に經濟問題の欠陥に過ぎぬこゝで、經費支出の道さへ何れかに求め得るならば、如何様にも理想的ジャムピングヒル、判り易く云ふならばウント飛距記録の作り得るジャムピングヒルの築造は易々たる問題であると思ふ。

實際今我が國にある固定ジャムピングヒルと稱せらるゝものゝ程度を見るに悠々と四〇米以上を飛び得る程の大規模な而して理想的なジャムピングヒルは何處にも求め得られぬのである。概してアプローチの築造が不完全不充分である。私

の關係したものは皆經費の許さざる理由の本に私の作圖通りに實現されて居らない。夫れ故此設備不完全の理由で、現在の日本のスキージャンプ界が飛距離の點で國際的たり得ぬのである。最も遺憾に思ふところである。

然らば第二の技術の點からの觀察では如何、此度の競技會を觀て第一に愉快であつたことは、各出場ジャンプアの技術の進境の顯著であつたことである。而して第二に從來の本大會と比較にならぬ好成绩であつたことである。

從來の競技會では正直のところ各ジャンプアに技術的研究的態度を伺ふことが出来得なかつた。是はジャンプ技術が未だ普及的に研究され得なかつた爲であつたと思ふ。夫れ故何時も本戰でのジャンプの成績は薰しくなかつた。時には却て地方豫選の成績の良好であつた場合もあつた。昨年 of 北海道の豫選などは其一例である。

兎もあれ本年の競技會では各地方から出場せられた選手の技術には充分研究的態度が見られた。早く云ふならば技術の要領が呑み込めて來た。

例へばアプローチの姿勢、踏み切り、空中、着陸の諸動作に於て以前には全く夫等のテクニツクの方法については全く無意味の様な姿勢をとつて居るジャンプアをよく見受けたが、今回の競技會ではアプローチの姿勢、踏み切り、フライト着陸の各動作にをいて出場者のスタイルが、たしかに飛型の審判を充分爲し得る程度に向上して來たと思はれた。然しアプローチの姿勢、踏み切りが良く空中、着陸の姿勢が不良であつたミ云ふ風な一長一短が多くのジャンプアに見られたことは事實であつた。

然し全体の成績から見て三回不倒者の率が出場者の飛躍數の四〇%に達せんとして居ることは昨年の大會など比較にならぬ技術の一般的進境であらう。

是迄はアプローチの滑走に於てどさへ兩スキーの不揃へなのを目撃した程であつたが、今度の大會に於てはフライトに於て甚しく兩スキーの不揃へであつたと思はれたものが左程無かつたと云ふこと、全動作を通じて餘裕のあるジャンプアが若干出來て來たといふこと。更に最長不倒距離のジャンプアに榮譽を與へることにしたことは、勇敢なる飛躍振りを多くのジャンプアに見ることが出來た。このことは専門的觀察から、特に云ふまでもなく、容易に觀察することが出來たこ

とであらう。

少くとも私達が外國の圖書や寫真などで見るカル、センやタムス式の飛び型に似た様なものを見たことも、一般にさうした方面の技術的研究の遂げられて居たことを容易に知るのである。

私は稿を追ふて更に部分的動作の觀察を簡單に述べて見たいと思ふ。

### アブローチの姿勢

先づ私の眼に止つたことは、或一部の人達を除いて大部分のジャムバアの屈身姿勢が高い姿勢に見えたことである。

スタートをしてから直滑降をなし、直滑降の姿勢から屈身姿勢に移る個所との時間などについては杓子定規の様に規定されて居らぬから、スタートしてからアブローチの三分の一位の個所でもう屈身姿勢に移つても、アブローチの三分の二位の個所で屈身姿勢に移つてもジャムバアの自由であるが、姿勢特に腰の高い姿勢をとることは最も有効なる力強い、正確なる踏み切り動作を次に控へて居ると云ふ點からしても亦、アブローチの滑走の安定條件から云つても良くない。然し屈身姿勢で始めから腰を低くすると大腿筋脛腓筋等の疲勞、苦痛を訴へると主張する人もあらう。尤もな考へ方である。私はかゝる主張の人の爲に次第に腰を低く屈して行かれんことを勧める。たゞ腰を除りに低くし過ぎると上體が後ろに反り易い弊がある。此點は一考の價值があると思ふ。

更に屈身姿勢で研究の價值あることは、安全に腰を落して脚底全體に體重を載せて終ふか、爪先に掛けるか、親指の附根の膨味に置くか乃至は踵に置くかといふことである。此問題の考究に當つて重大なる要素として考へらるることは兩腕の位置とその保持姿勢とであらう。勿論アブローチのスピードも忘却することは出来ない要素である。アブローチのスピードが増せば増す程體勢が後方に遅れ勝なことは何人にも考へらるることであらう。其處でそのスピードの非常にある時、遅れ勝の體勢を如何なる方法にておぎなうが合理的であらう。體を起して居る直滑降の場合であれば、體重を前脚に移して來る即ち兩脚を前方に折り加減にして、むしろ後脚より前脚に多く體重を傾けるであらう。尙一層スピードの増大

した時に試みに腰を落して兩脚を少し開いて滑走して見るならば、前者の姿勢で頑張つて滑るよりは後者の姿勢の方が樂であることを知るであらう。其時上體を前方に屈めて體の安定を保たねば非常に不安でならない。上體を前方に屈める時に膝の位置は最大傾斜線を含む面に殆んど直角乃至は銳角の位置に置かるであらう。そして兩腕は前方に力を入れて保たるであらう。其時體の重心を何處に置か。此點まで考へ來て屈身姿勢に立戻つて見度い。私の考へではジャムブの場合にもこの考へを(記述は簡單過ぎて居るが)入れて、屈身姿勢での體の重心を脚底拇指の附根の澎味に置いて兩膝を心持ち前方に折り兩手先を握るか又は開いて但し力を入れて體の前斜方に保ち雪面より一〇釐位の高さに置き肩巾乃至は夫れより稍々廣く開いた姿勢をとるのが良いと思ふ。勿論次の場合の踏み切りの動作のことを考へに入れて居る積りである。尙其他の考究は他日にしたい。

### 踏　み　切　り

踏み切りの方法に大體三つあることは多くのジャムバアの已に知らるるところであらう。一つは軽く滑り落ちる様に出て行く方法で、是は滑り落ち踏み切りと云つた方が適切かも知れぬ。第二は思ひ切り臺上から上方に同一地點から同一力で殆んど眞直ぐに飛び上る様な踏み切り方法である。一般に投射さるる物體の合理的方向四十五度論が若しもジャムブの踏み切り方法と云ふものにも適用し得るものとせば、四十五度以上の角度を爲してシャンツェから離れることは有効な踏み切りでないことになる。此見地から私は第三のスキーの尖端が臺の前縁に達した時に兩腕を前上方に強く振り上げ同時に完全にその時體を伸び切つて、四十五度方向に向つて踏み切る方法が最も有効な踏み切りであると思ふ。此時體を四十五度方向に持ち行く様に兩腕を以て其方向を決定し得る様熟練して置くなら尙一層有効であり正確になると思ふ。サツツの少し前で兩手を後方に引き又は腰を急に低くして踏み切る方法で、踏み切りを有効にするやうにするより、屈身姿勢で前斜方に力を入れて差し出してある兩腕を一層有効にする様に考へた方が増しである。尙兩腕の上げ方や體の伸ばし方やサツツの際の着眼の位置なきはジャムバア達の研究を望みたい。

## フ ラ イ ト

サツツで體の伸びぬ人はフライトに出てから伸びる。甚だしいのになると伸びぬのさへある。上體が伸びて居ても膝のところ屈して居るとか、上體だけ前方に傾いて居ても膝のところ如何にも萎縮して見えたりしたのもあつた。

如何にも體全體が伸び切つて居て、兩腕が體の左右で大きなスウィングをして居ても體全體が鉛直の方向で起立して見えたものもあつた。兩腕のスウィングだけを捕へて論じて居てもなか／＼長い記述になる。概して大會當日の兩腕の振り方を見るに體の前方から上方後下方に大きく力強く餘裕をもつて振られて居たのは極く少數の人にしか見られなかつた體の左右で而も體の後方で小さい繁しい廻轉をして居るジャムバアが多く見受けられた。是は良い方法ではない。其點などは餘裕の有無を辯ずるに判り易い點である。スキーの割合に揃つて居たことは全體のジャムバアのフライトを通じて先づ長所とも見られやう。但し中には若干の例外はあつた。フライトの後半を過ぎ着陸の前瞬間にランディングの準備姿勢に前脚スキーを前出して飛ぶだけの餘裕を見せて居たジャムバアは本當に二、三に過ぎなかつた。

## 着 陸 姿 勢

轉倒と不倒とでは可成りの相違である。殊に競技規定を三讀して居る人が此感じを強く抱いたことであらう。

着陸の瞬間に目につくのがスキーのテールから落ちるか、スキー底面が完全に同時につくかといふことである。テールから落ちて居る間は未だ着陸の前瞬間のフライトの餘裕がないと云ふ風にも解釋される。そして又テールから落ちると着陸姿勢が樂に出来ない。どうしても無理をすることになる。姿勢が崩れ易い。兩足一束的な着陸姿勢は醜い。轉ばぬ様になつたならば更に合理的に樂に着陸姿勢をとつた方が有効である。馬乗り式の着陸姿勢ではショックが大きくなると崩れるに決つて居る。そしてスキーのエツヂでも立つと見事な頑張りを見せなくては到底轉ばずには濟まない。兩方のスキーが左右に開いて着陸した人も見受けたが兩スキーを引寄せて直滑降の姿勢に移る時エツヂが立ち易い缺點がある。もう一

つよく見受けた着陸姿勢で上體を起して居て、何れか一方の脚でショックを受けてテレマークジツツエンの姿勢をとつて居た人も見受けたが、是は如何にも綺麗に見え易いが、體が後ろに残されて、直滑降に移る際に拂はれる缺點がある。

着陸で最も餘裕のある合理的姿勢をとつて居た人が一、二に過ぎなかつたことは此部分まで多くの人の研究が届かなかつたのであらうか。割合に深いテレマークジツツエンの研究と上體の姿勢の保持との研究なごを、遊び乍らテレマーク滑走などやつて居る時に、好い可減上氣して滑らずに少し考へて有効に滑る様にしたなら、テレマークジツツエンの呼吸を呑み込む一助となるであらう。シャンツエに行つて飛んで見なくては要領が會得されない云ふのは考へて練習して居る回数が不足であると云ひたい。

技術的の觀察については、考へついて居て書残して居る事柄があるが、何れ他の機會に譲り度いと思ふ。

### 飛距離及び飛型點數の關係

此處では單簡に現行の聯盟規定探點法を述べて置きたいと思ひます。

現行の聯盟ジャムプ競技規定の探點は周知の如く滿點を二〇點とし、最低を〇點として、飛距並びに飛型に是を用ひて居ります。

而して距離の方は競技會當日の最長不倒者の米數を最高二〇點として以下表によつて、米數に相當せる價值點を出して是を夫々各競技者の飛距點數として居ります。そして端數は一〇種まで出し以下切棄てになつて居ります。そして一〇種の差の點數が〇、〇五となつて居つて、従つて五〇種の差が〇、二五點、一米の差が〇、五點となつて居ります。夫れ故距離で二米の差があつた時に點數に於て一點の差が出て來る譯です。

所でスタイル即ち飛型の方では如何と申しますと、最高を二〇點として最低を〇點として居ります。夫れ故スタイルに於ける一點の價值は距離に於て二米の開きに相當した價值になる譯です。スタイルが非常に重要なものであると云ふこと

が容易に判ります。國際競技では距離の點數は〇、五米以下切棄てになつて居ります。夫故飛型點數を飛距點數と幾分接近した價値にまで持つて行つて居る様であります。

私は飛型點數と飛距點數について、果して是を同等價値にすべきものか、或は全く同じ距離を二人のジャムバアが飛んで居る時兩者のスタイルが非常に相似て居て甲、乙の區別を全然と定め得ぬ時、是を細いスタイルの點數によつて、即ち飛距點數の最低〇、二五以下の點を作つてスタイルを嚴密に區別して採點すべきかと云ふ此兩者の關係については、目下考究中であります。若しもスタイルの點を嚴密に尙細く減點するとしたら一〇〇單位にするか、一五〇單位にするかといふ様なことについて大方の考究をも希ひ度いと思ふのであります。

尙又果して現行規定では不充分であるか、又未だ此程度で充分であるか、といふ様な問題をも多くの人達に考へて頂きたいと思ひます。

終りに、私が此稿を書き終へんとして居る頃、大會のジャムプの成績に對する批評を二、三拜見しましたが何れも匿名の爲によくお話しすることも出来ず誠に残念に思ひましたが、若しジャムプに關して批評を下された匿名の方が拙稿を手にされたなら、同時に聯盟の競技規定のジャムプの項を三讀せられ、再考あらんことを望みます。同時に競技者は競技出場に當つて豫め規定を充分呑み込んで競技に出場し、所謂策戰を凝らして居るものであることを考へて頂き度いと思ひます。

## 御 詫 び

私が五七號で御説明申しましたフィンランドのジャムピングヘルに關する記事、設計圖と説明文との一致を欠いた點がございました。大へん粗忽を致しましたことをお詫び申します。

# デイスタンスレースに就て

—— 第四回全日本スキー選手権大會 ——

岡 村 源 太 郎

毎年のやうに絶えまない進歩をなしつつある我國スキー競技界が、今年再び第四回全日本スキー選手権大會を中心に異常の進歩の跡を認め得た事は非常に喜ばしい事である。デイスタンスレースに於ても、豊原に集つた全日本の精鋭數十名の奮闘に依つて、從來に無い立派な記録の數々を示す事が出来た。殊に、第一回の小樽に於ての大會に比較して隔世の感があるのである。

當時長距離を稱せられた十軒レースは、今年は短距離中でも短い方と考へらるゝ程で、記録も小樽の六十三分四十四秒（島本君）が五十五分臺（矢澤君）にまで進んで、小樽コースより随分困難と思はれた樺太コースでも八分程のタイムを縮めて居る。従つて實際に於ては十分以上のタイムを短縮して居ると云ふても差支へない。僅か三年間に一

時間のタイムが五十分以内になつたわけであるから、その速やかな進歩に對しては當時の人として考へれば驚嘆に値するわけである。そして猶今後の進歩發展の餘地が意外の所に拓けられて居るであらうし、又現在我々が考へて居る事情に従つても可成發達の餘地がある。甚だ喜ぶべき状態に在る事が信ぜられる。

又同様に短距離レースと考へらるゝ、リレーレースも早大チームの奮闘によつて美事な記録に接する事が出来た。從來の一キロレース或は四キロレースに比較して拔群の好記録を示して居る。

次に長距離レースの記録を見ると、之も今年最初の試みであるにも拘はらず、短距離レースの記録に比較しても明かに從來の位置より傑出しつつある事が知り得られる。豊





三角山附近（北海道豫選當日）

加納一郎

原の二十五籽コースは雪質の都合上少し短くなつて居たらしいが、兎に角二時間十四分四十六秒（高橋君）と云ふ我國最初の長距離記録に接し、それが歐洲各國の選手權大會等の記録に比較しそう恥しくない事は、之又今年の一大收穫と見なければならぬ。そして高橋君を始め他の二十五籽出場選手の各種コンディションの割合に不良であつた事、或は地方豫選の成績で優勝を期待せられて居た福田君、石塚君の負傷して出場し得なかつた事により、今年既に高橋君の示したタイムが既に我國選手は二十五籽を二時間十分以内で走る力を持つて居た事を推察せしむるものではあるまいか。實際に於て樺太コースが今少しく好状態にあり雪質が良好であつたならば、たとへ二十五籽コースの距離が短くせられない以前であつても、二時間十分のタイムは今年作り得られた筈であると信ずる。之は今年の記録を得た後の想像であつて、今年のレコードは少し物足らぬ感がしないでもないが、反つて之は來るべきシーズンへの潜勢力が貯へられてあるのだと云ふ事を物語つて居るわけである。

今二時間十分を我國デイスタンスレーサーの二十五籽の

スピードと假定して見るに、一年乃至二年後にはこの二十五籽の倍の五十籽を四時間二十分位で走れるランナーが出る事が想像せられる。この想像が殆ど確かに近い事は、昨年及び今年の北海道選手權大會の記録より割出して考へた結果によつて知られるのである。（コースが昨年及び今年殆ど同一コースを使用）それは北海道大會に今年三等であつた私のスピード（一等との差約四分）が丁度昨年十六籽レースで優勝した時の私のスピードと殆ど同じであるからである。即ち距離が十籽や二十籽増加しても、一年を経過する間には一年前の優勝レコードの一籽平均タイムで全コースを走れるランナーの出る事を物語つて居る。

然し今後必ずしも今年の如き急激な進歩を續けることは限らず、又距離が三十籽以上になると可成様子も異なるのであらうから、來るべきシーズンの五十籽四時間二十分を望まないにしても、あの樺太二十五籽コースを少し改良したならば四時間三十分で必ず二回廻る事が出来る。

即ち今年の記録なる二時間十四分四十六秒を直ちに外國の長距離レース五十籽タイムと比較して見るのも、可成の程度まで意義深い事と信ずる。それで今最も權威ある長距離レースとして古くより知られて居たノールウエーのホル

メンコーレンの五十籽レースの記録を参考にして見るに、今年の二十五籽二時間十五分云ふスピードは、ホルメンコーレンの五十籽の毎年五等乃至十等に當るスピードに相當して居る。そして雪質の悪い場合であつた一九二二年のホルメンコーレンでは、優勝者でさへも四時間四十分以上も費して居たので、従つて二十五籽は約二時二十分の割になつて居る。

又近くの一九二四年のシヤモニーのオリンピックの五十籽では、四時間二十七分が十等のタイムであつた事より推せば、二十五籽を二時間十分内外で走るランナーはシヤモニーで十番以内に入れたらうとの想像が可能になつて居る。即ちコース、雪質等を論外にして考へるならば、我々の記録は兎も角も、世界的ランナーの域に大いに肉迫して居るのではあるまいか。

然しデイスタンスレースの記録はコースの状態によつて甚だ變り易いものであつて、ホルメンコーレンで五十籽四時間を切つた事のないハウクが、シヤモニーでは悠々四時間を切つた上、三時間四十四分と云ふ素晴らしいタイムを出して居る事によつても、想像する事が出来る。従つてこの豫想を裏切るも確かめるも唯コースの状態如何にある事

を附言しておく。

コースそのものに關しては、可成理想に近いものである事は出場選手の均しく認めた所であらう。そしてあの長い二十五籽コースを殆ど無理なく一本コースに取り入れた所は、豊原の地形が從來の開催地なる高田や大鰐に比して可成優れて居た事を物語つて居る。

唯最も遺憾であつた事には、コースが風にすつかり荒らされて居た。我々が渡樺數日前の大吹雪の爲にコースは大部硬雪に蔽はれるに至り、場所によつては大理石面の様に感ぜらるゝ階段狀雪面の爲に、殆どスキの効果を失ふかとまで思はる所があつた。又肝心の下降斜面で、豊富にあるべき雪が全く吹き飛ばされて、最も危険な切株の頭を出して居るクルステ面に出逢ひ驚いてしまった。如何に天候の爲した業であるとはいへ、之等の障害が遂に優秀ランナーの負傷による出場不可能或は競技當日の驚くべき重傷者を出した事は返す返すも遺憾な事である。そして又山火事或は虫害によつて根柢より破壊せられ、殆ど一本の緑の木をも失つてしまつた豊原郊外の荒涼たる様に接しては何人も眼を蔽はざるを得ないであらう。若し今の古い木株或は

立木として枯死して居る木々に、針葉の濃い緑が全てに載かれて居たならば、風の暴威もさまで甚しからず、又コースに沿ふての附近の情景も北歐スキーゲレンデのそれに劣らぬ美しさを示したであらう。

コース設定に關しては、從來のそれに比して可成レコード本位に行はれて居た。急坂は適當にデックザックが取られ、開脚登行を必要とする場所が非常に少かつた。従つて急な登りもさしたる苦痛なく走られ、距離に對するスピードも割に良好となつて、先に述べた様な最良記録を作るやうになつた。下降斜面も二十五籽コースの一部を除いては殆ど理想に近いものと考へられる。唯平地コースは勿論工合よく取れて居たが、その距離がもう少し長くあつてもよいのではないかと考へられた。此の平地を全コースの三分の一取ると云ふ事については、可成議論のある事で平地と登降斜面の境界がはつきりして居ない爲に確然たる斷定を下す事は現在の我々には不可能である。即ち降り或は登りに屬する平地、又は三段滑走で登り得る登行斜面等が何れに屬すべきかに就いて迷はせられたもので、之等の問題に就いても早く歐洲の三分の一システムのコースに就いての

智識を得たいものである。實際レースコースのタイムはこの三分の一システムに従つて採用せられたコースの状況によつて甚だ大きな優劣があるものである。

更に又コースの最高點の状態によつてもレースのスピードが可成左右せられる。之は今年の十籽優勝タイムと二十五籽優勝タイムとの比較によつて知る事が出来る。即ち矢澤君のタイムである。十籽五十五分四八秒の割で走つて二十五籽が約二時間十五分になるのであつて、二十五籽のスピードが十籽に比較して可成勝れて居るわけである。之は明かに十籽コースは二十五籽コースに比較してより困難な地形になつて居た爲で、簡單に云へば二十五籽コースの最高點と十籽コースの最高點が同一であつた爲である。従つて僅か五十五分臺のレース中に十八分以上の連續登行斜面が含まれるやうになり、十籽のタイムを可成悪くしたものと考へられる。

猶此の他十籽タイムを割に悪くした理由も少くないが、登降及び平地の三斜面の配置の如何が記録に大いに影響を及ぼす事を忘れる事が出来ない。そして寧ろ三分の一システムのコースでは之が最も大きな原因となつて居るのではあるまいか。之はシャモニー五十籽コースの最高點は八百

米もあつて、ホルメンコーレンコースの最高點の略々二倍もあるにも拘はらず、ハウクがホルメンコーレンでは夢見る事も出来ぬやうな好記録をシャモニーで出して居る事によつて想像し得られる。或はホルメンコーレンの三分の一システムがシャモニーのそれと大部趣を異にして居るのかも知れない。

次にコースの標示に就いては、今度の大會でももう少し合理的にして頂きたかつたのである。之は又將來競技規定に於ても充分説明せらるべきものであらうが、コースに立てる旗は、競技者が必ず通過すべき二本の旗(ヘコントロールポスト)ミコースそのものを示す指導旗を明かに區別しておくべき事である。即ちコントロールポストには大きな二本の旗を立て、その二本の旗の間を必ずランナーが通過する事とし、指導旗は大体コースに沿ふて小旗を一本宛立てるに止めるがよい。従來豊原或は大鰐では至る處に二本宛立てゝあつた爲に、ランナーが非常な不便を感じて居た。之が爲に滑走中不合理な制限を受けて、ひどい轉倒より負傷に陥つた者或は競走中所謂不正ならざる不正行爲を行つた者等が少くなかつたと思はれる。

然し、風の爲に荒れに荒れたコースが、大會當時非常な負傷者を出した事は甚だ遺憾の極みであつたが、走路員が大會前までにコース修理の爲に拂つた努力も極めて大いなるものであつた。ウインドクルステ面を削り取り、雪の吹き飛んだ場所へ雪を集めてコースを作り上げるやうにし、兎も角も注意すれば充分滑走の出来る斜面にして頂いて、甚だうれしく思つた。欲を云へば限らないが、あれだけに荒れたコースを兎も角疲勞し切つたランナーが恐怖心無しに走れるやうになるまでは、想像以上の努力と専門的智識が拂はれ無ければならなかつたものと考へる。深くその誠意ある努力に感謝する次第である。

出場選手の技倆に關しては、今更私の駄言を勞するまでもないが、兎に角スキーレースも單に体力のみでは到底優秀の成果を收め得られない事が、一層明かになつて來た。所謂科學的走法とも云ふべきものが愈々必要になつて來て今度の大會にもそれ等の點に注意を拂つたグループの人々の好結果を收めて居た事は大いに喜ぶべき事である。之はたとへ距離が長からうが短かからうが、是非念頭におかねばならぬ事であると思ふ。

スキー器具も大變進歩した用具が使用せられ、樺太コー  
スに最も適當なスキーを穿いた人に勝利が與へられたので  
あるが、このスキーに就いても今後もつとく研究すべき  
餘地があると思ふ。大体に於て平地と登りがもつと速くな  
らなければいけないと思はれる。スキーの長さ、カーヴ、  
ワックスの研究に一段と力を注がなければならぬ。  
技術は各グループの選手によつて、獨特の走法が目立つ

やうになつて來た。小樽選手、樺太選手、早大、札幌等の  
選手等はそれ／＼趣の異つた走り方をして居る。今後之等  
のグループの人々の不斷の努力益々その効を奏し、やがて  
立派な日本選手の滑走法が速やかに完成せられんことを期  
待する。この意味に於てもこの全國スキー選手權大會を益  
々有意義な會合として行きたいと願ふ次第である。

## 雪庇の生活史及び其のスキーランナー に對する危険性について

石 内 直 太 郎

### 一、緒 言

練習場のふみつけられた雪に満足の出來ない人々は、處  
女雪を追ふて、岡に行き、谷を越へ、彼の山に登る。其は

スキー登山家のみではない。スキー旅行家のみではない。  
其は、あらゆる人間の自然的欲望であらう。

然しながら、すべての山、すべての野が理想的な *White*  
*Galände* ではない。ある山では雪崩が待つて居る。ある谷

では雪庇が口を開いて居る。めぐまれた天候の下でも色々な危険がスキーランナーの油断を待つて居る。此等の中でさけうべき危険を明るみにさらけ出し、充分な注意の上に突破すると云ふ事は望ましい事である。私は此處に、雪庇に關する貧弱な知識をしほり出して見たい。

## II、雪庇の成因と考へるべき Factor

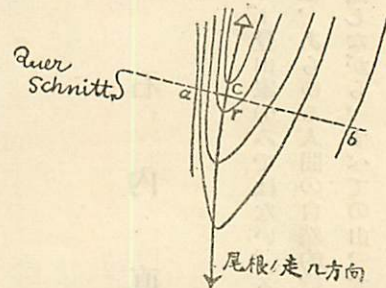
### (a) 雪の粘着力

雪の粒が完全な球であつて、粒 (Particle) 相互間に摩擦が皆無であつたなら、谷は一冬の間に完く雪にうずもれて、山頂には極く薄い雪の層すらも見られないであろう。然るに、いかなる Powder Snow の場合にも、雪は多角形の複雑な結晶体であり、氣温の高まるにつれ、その粒の Surface は粘着力を益す。この雪の粘着力の多少は、雪庇の形狀を左右するに與かつて力ある者考へられる。

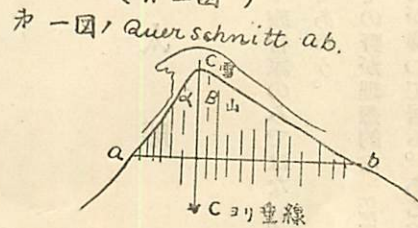
### (b) 山尾根の形狀の不均等なる事

(1) 尾根の走る方向に直角に切つた Section が等邊ならざる事。(即ち尾根が兩測の谷に異なる角度のスロープをなす事。) 第二圖に於て R 卽ちなる條件が雪庇の成立、形狀に關係する。

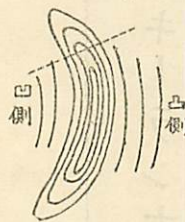
(カ一圖)



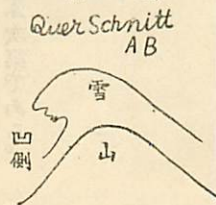
(カ二圖)



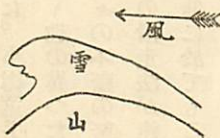
第三圖



第四圖



第五圖



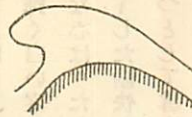
(2) 谷に對する尾根の Concavity

谷に對して尾根が凹形を成す場合雪庇の形成に Positive 凸状の場合には Negative な結果をあたへる。

- (c) 風 の 方 向 (第五圖)
- (d) 其 の 他

雪庇の形成に對して、樹木、岩石等がたすける場合、其の他色々な Factor があるであらう。(私は未だ知らない。)

第六圖



第七圖



第八圖



第七圖ヲ正面ヨリ見タルモノ

三、形 状

(1) 第六圖は山頂、尾根、峠の上に出きる代表的な形。

(2) 第七、八圖はスロープの途中に出きる代表的な形。

(3) 其の他、地勢、風力等によつて、色々の形が出来る。

例へば直立せる壁の如き者、その壁の頂に小庇のある者、層をなせる者等。

四、生 長

初冬、雪の降り初めには、一尺程の壁にすぎない雪庇の Anlage も二月二月の吹雪によつて育くまれ、三月に入れば堂々たる雪庇の風格を備ふるに至る。雪庇は益々其の形を Exaggerate せんが爲の如く生長さる。即ち雪庇は加速度を以て形成される。

かくして出来た雪庇は、春の暖い光と共に、その老衰期に達する。遂に雪庇はその頭の重量にたへかねて、谷になだれ落ち、春のはなやかな蒼空に白い雪煙と共に、勇ましい響をたてゝ消滅する。

五、其の危険性

總ての地形が明らかであり、何等の危険性を見とめられない比較的小さな雪庇は自然が作つた美しい Colonnade に外



ならない。熟練したスキー家は、其れを利用して Higel sprung や Quer sprung を享樂する事が出来るであらう。

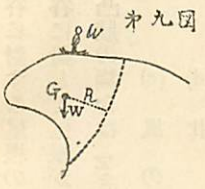
又、地味にクリスチャニアの形で（雪庇の頭を少しくだいで）乗切る事は schieber になされるであらう。致命的な危険は大きな雪庇の脊上で起る。

雪庇の脊の上では其の腹部が、如何なる形状であるか解らない。此について二つの重大な場合を考へる事が出来る

(1) 急激な崩解による危険

春の空に輝く白い峯々は壯麗で嚴肅の境である。此處では不眞面目な心は、たちどころに自然の制裁を受ける。これ程キビくした愉快な世界が他にもとめられようか。その制裁の一つとして雪庇を數へる事が出来る。

太陽の熱と光で暖められた春の雪庇はやゝともすれば、崩落しようとして居る。その上に人がのつた爲に谷に落ちるのは稀な事ではない。九圖に於て



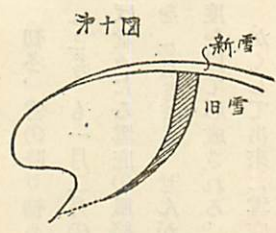
G || 霏れ様とする雪庇の重心  
 W || 重量  
 R || 重心と出來た裂目との distance  
 W || 人間の重量  
 W.R || 雪の粘着力の總和 (S) なる場合  
 (W + S) R || S  
 W > S なる時は雪庇は谷に落ち

此の場合出来る裂目は、地震の時、見て居る間に地割がすゝると全く趣を同じくする者であらう。

(2) 自然に生じた裂目の危険

温度によつて雪庇の脊に出來た裂目 (G-palte) には full speed で走つて居ない場合には、たやすくは落ちられない。

然し、第十圖の如き場合には、巧な落穴となるであらう。



新雪によつて裂目のふさがつた場合、雪庇の脊上では何事も無い様に見えるが實は、かくれた裂目の中では暗黒がただよつて居るのである。かゝる穴に落ちこんだ場合は全く危険である。落ちむと同時に崩れ落ちるかも知れない。

又、未だ其程までに、裂目の幅の狭くない場合には、落ち込んだ者は硬雪に腰をはさまれて自由を失ふ。

(例) 一九二四、三月廿一日。

越後關温泉に近かき神奈山頂。

午後一時半不幸にも一名のすがたが消えて、初めて穴の存在を知り得た。彼の足もとから下は薄暗いやみの様な氣配がただよつて居るので、その深さを知る事は出来なかつ

た。彼は腰を強くはさまれて中間にブラさがつて居た。私等はロープもシャベルも持つて居なかつたので、彼は細長い空に星が一つ二つこぼれる頃まで身動きが出来なかつた。

此如きスバルテの裂ける方向、形状は雪庇の形によつて決定さる。

雪庇の形状は地形と雪質によつて決定される。

しかるに地形と雪質とは種々様々であるから、そのシユバルテの方向、形状は一定でない。然しながら、軟雪地方に於ては拾圖に示す加くカーブして、ほとんど直線となる場合は稀であらう。

(3) 雪庇の崩解によりて生ずる雪崩

これは谷又はスロープの途中を通過する場合。

雪庇の下のスロープは概して急斜面が多いから雪庇の崩と共に雪崩を生じやすい。

小雪庇の下でスロープが雪崩を引起す程、充分に急でない場合には<sup>ウズマキ</sup>状態な圓形の雪崩の一種を形成する事がある。このウズマキの大きさはスロープの長さによつて決定さる。加速度を以て大きさを益す。

然して、このスロープはその時の雪質に於て、雪崩の出

る最少の傾斜を持つ者と考へられる。(これより少しでも急な斜面に於ては雪崩が発生すると考へられる。)

以上の事實は重に本邦軟雪地方の事で、北海道方面の良雪に、其まゝあてはまるとは思へない。

然も其事實たるや、眞に貧弱な知識の上に立つ者に過ぎないから、幸に豊かな知識を持つ方が、此の間違つて居るかも知れない観察、推論を直していただければ、よろこばしい次第であります。



## 二月の夕張岳

小 森 五 作

昨年は積雪量が非常に少なかった爲め、或は日數に制限された爲めに、素張らしい天氣であつたにもかゝらず、屏風山（陸測圖幅金山）まで行つたのみで引返さねばならなかつた。透徹した、清淨な空に屹立して居る夕張岳の姿は心に深く刻みつけられた。蒼氷を思はせるその岩壁を見て、すっかり興奮してしまつた。目的は達し得なかつたが歸途の愉快な林間滑走——廣い、緩るやかな針葉樹の純林の尾根を身分不相應に廻りながら滑つたのは楽しい思ひ出さなつて居る。

今年は出来るだけ、日數に制限されずに登りたいと思つたが、根據地となるべき小屋は勿論ない。よし有つたとしても不完全な造材小屋で、それを根據地として數日滞在する事は、造材の盛んな時期に於ては全く不可能である。で

十梨別川の上流に野營する事とした。然し、野營豫定地まで重い荷物を持つて行つて、その日に野營する事は、不可能な事であるので、二日乃至三日を費してキャンプする豫定であつた。幸ひポントナシベツ川と、ラウネベツ川の約中間に造材小屋があつたので、行程が非常に樂になつた。

最初トナシベツ川には小屋がないと云ふ話であつたのでエバナオマンドシユベツ川の出合附近にキャンプして、エバナオマンドシユベツ川を溯り、二岐附近より左手を登つて、尾根に取り付く豫定であつた。然し稻垣の話では、エバナオマンドシユベ川はガンケが出て居て、二股まで登り口も野營地も殆んどなく、又その上、二股の上は瀧で、私達の計畫の不可能な事を知つた。本流の左手から来る無名の澤の二股附近に適當な場處のある事を知つたので、豫定

を變更してそこにキャンプし、夕張岳よりほど北東に走る尾根が獨立標高一二三四米の峯で分岐して、南東に向ふ尾根を登る事とした。

私達六名と人夫三名が五日間野營する爲めに、天幕は八人入屋根型一、六人入圓錐形一、を用いた。又防寒具としては、馴鹿のシユラーフサツクを各自使用した。尙人夫の爲めに毛皮ズボン三ケを持參した。(アイヌを除いては冬の經驗あるものは殆んどないから、彼等は毛皮類の防寒具を持たないのである。北海道にては獵師を人夫として使用する事は殆んど不可能な事である。)

天候、雪質にめぐまれた私達は、僅か二晩の野營で目的を達し得た。その日程の概要は次の様である

X  
X  
X

二月六日〔曇〕

造材時期なので人夫がない。やつと三人かり集めてもらふ。皆老人で只夏に砂金取りに行つた事のある位な者ばかりだ。

買物、荷分けなどで稻垣の家を出たのが十時卅分、小屋まで行けば好いので、盛んに休みながら行く。途中で

人夫は荷を手籠に積んでやつて来る。小屋着三時廿分、早速事務所に行つて交渉する。やつと滿員の小屋に泊めていただく。

二月七日〔晴〕

今日はすつかり晴れわたつて居る。今まで可なり荒れて居たのだから、おさまつても好い時分だ。人夫がひどく後れそうなので、各自シユラーフサツクを持つ事とする。八時卅分出發。リュツクがどつしりと肩にくる。

川を歩かずに岸をつたはつて行く。十時十分、エバナオマンドシユベツ川合流點。

此れからは岸を行く事が出来ないで、シユネー、ブリユツクを求め、右に左にと渡りながら行く。川は割合に埋つて居て渡るには困難を感じない。然し下流の方がよく埋つて居た様である。リュツクが重いのとスキーに雪が付くので行程がはかきらない。十一時四十分中食。

此の附近に可なり好い野營地があつた。右手から来る小澤を過ぎてから、箱の様な形をして来たが、二股の手前に兎に角キャンプし得る場所があつた。時間も一時廿分であつたので、そこを野營地とする。早速キャンプの準備が始まる。雪煙を立て、枯木が倒される。

Wと二人で登り口を見る爲めに、上の二股まで行つたがガンケで全然駄目だ。上の二股とその次の二股の間が、ヤツカイ箱と稱する處である。野營地の後に緩傾斜の處があるので、それを登る事とする。

雪を三尺程掘さけて天幕が張られた。内にはト、松の葉が厚く敷かれる。豪遊なベツトが出来上つた。谷一杯に夕暗がせまつて来た時分には、焚火も赤々と燃えて、すつかり準備が出来た。食後明日の登路を議論しながら、登山具食料の用意をする。氣温午後五時零下六度、午後八時四五度（天幕内）

二月八日〔曇〕

人夫が不慣れな爲め、仕事が非常に後れる。八時出發。左よりにぐんぐん登る。雪はしまつて居て、南面はクルステを形成して居る。今日は出發が後れたので、コースを見る丈けだと思つて居たが、案外行程がはかどらしい。しばらくすると小さな針葉樹のひどい密林に入る。晝尙暗しと云ふそのまゝの感じを與へる。それを出ると急にニベソツ、十勝岳が望まれる。素張しい眺めだ。振り返ると、日高連峯の上に眞黒な雲がかゝつて居る。屏風山の方から雲が段々と近づいて来て、今日の天候が不安になつて来る。

二時間を費して尾根に出て、一休みする。思つたより時間がかゝらない。北側は雪屁をなして、急傾斜におちて居るので、南斜面を大体尾根通りから行くと行く。一二三四米の手前にて第一回の食事を取る。十一時十分——十一時三十分。

一二三四米の峯は横をからんで行つたが、可なりひどく切れ込んで居る。是れからは尾根も廣く、傾斜も緩くなつて居る。森林帯を出ると西風が雪を混じへて吹きつける。顔をそむけ、ウインド・クルステになやまされながら進む岳樺もきれて、いよいよピークの登りとなる處をスキー、デボットと定める。一時卅分。

頂上は全然望み得ない。ひた登りに登つて行く。段々と傾斜は増して来る。四十五度位である。所々クルステの上に雪がたまつて居て苦しめられる。もう可なり登つたと思ひながら仲々頂上らしい處に來ない。二時廿分となつた。スキー。デボットまで降りでも卅分は要する。それから二時間はどうしても見て置かねばならない。もう引返さねばならない時刻だ。如何にせんかと思つて居る時に、目の前にかすかに眞白な三角形のものが認められる。櫓だ。さあ行かふ二時廿五分、遂に頂上をふむ事が出来た。櫓は厚く雪を付

けて、中に人が一人やつと這入れる位になつて居る。直ちに出發。急傾斜なので先頭のシュトユウフエンを忠實に踏んで行く。スキーデボット三時十五分。クルステに苦しめられながらぐんぐん下る。朝よりクルステはひどくなつて居る。四時十分、第二回の食事を取る。暗くならない内にと大急ぎで下る。

五時廿分、キャンプに歸へり着く。焚火の周りは取り廣げられて、座席が出来て居る。焚火の御馳走を心ゆくまでむさほらう。心よい疲れが体中をかけめぐる。非常に暖かなので焚火を圍んでさゝやかな食事が始まる。食後のテールを樂しみながら得意の歌を勝手にどなつて居たが、何時とはなしに、一人去り、二人去りと天幕の中にすい込まれて行く。

氣温 午前六時 零下十度 零度(天幕内)

午前十時 零下五度

午後九時 零下一度 四度(天幕内)

二月九日〔曇〕

今日は夕方までに金山に着けば好いので、ゆつくり出かける。十時卅分出發。昨夜からの暖氣で、往路には樂に渡れた處も渡れなくなつて居る。スキーに雪が付くのをこほ

しながらも四時頃に金山に着いた。

× × ×

私達が登つた尾根を昨年見て、可なりひどい密林と思つたが、偶然にも好いコースを取り得たのか、決してひどいものではなかつた。今度野營した處より下流に野營するに好い場所が三ヶ處程あつた。キャンプした處は木が割合に少ないので今後はさうかと思ふ。

四月になればエバナオマンドシュベツ川より上流は殆んど渡れないと思ふから、出合附近より直ちに尾根に取り付くか或はラウネベツを溯らねばならぬだらう。ラウネベツ川は樂に兩岸をつたふ事が出来る。好い天氣をつかんで屏風山からの尾根を歩けば面白い事と思ふ。

大變つまらない事を書き立て、誌面を汚した事をおわびします。

# 芬 蘭 の ス キ ー

今 泉 剛 一

初めて此の國に來てスキーの話をする時にスキーと云ふてもシーと云ふても一向に通じないので身振で眞似してみた

が之れも又通じない。一体此の國は山と云ふ山は北の方へ行つて少しばかりあるばかりで、岡さへ充分になく平地が多いのでスキーを平地の交通具とでも思ふて居るらしい。それでスキーの身振りをするに兩方の杖を後にツツバツテ押し進む眞似をするのである。

十月中旬から *Borga*<sup>ボルガ</sup> にある *Sportatiles Co.* の工場へ入つて丁度一ヶ月半ばかりこゝの製作を教へてもらつた(黒い熊の商標のあるスキー工場)

此の國にはヒツコリーもアツシユもなくスキー材の大部分は「白樺」である。之れにも二種類あつて同様 *Populus*<sup>ポプルス</sup> と云つて居るが樹皮が比較的白く葉の少し垂れ下つて居る方がス

キー材として優良の様に思はれる。(自分は日本から白樺その他の材を少し持参したので比較して見たが何れ明年一層研究した上比較表を作つて見たいと思ふて居る。)

何分此の國の二分の一が湖水で残りの三分の二が森と云ふ有様であるから、用材は非常に豊富でオシゲもなく使用して居る。スキー材として切り出すものは徑八寸位から一尺位のもので、此の用材から好くて五臺少し材質が悪いと思ふと三臺位しか取れないのでどんな優良のスキーでも出来る譯である。而も板挽きの後完全に一ヶ年乾燥したものでなければ決してスキーとして使用せぬ事にして居る。

氣候の關係もあらうがスキー材の切り出しは九月下旬から十月末迄であつて、そのまゝ越年五月に入ってから板挽にして天然乾燥を續け翌年それを製作するのである。自分

の行つた工場は年産額四万臺と云ふのであるから最後の加工に人力を用ゆるばかりであとは全く機械力に依て居る一日の製作力二百臺、全くスバラシイ様に思はれた。其のすぐ近くにエメルランピネンと云ふ人の工場があつて之れは年に三千臺から四千臺位作るので工場も小さく人力に依てなされて居るところが相當にある。兩方の工場を遊びまわつて來たのであるが一ヶ月半ではとてもものにならないので本年はミツチリ腰を下して教へてもらはう約束をして居る。

ノルウエーのもの、スエーデンのもの、スウイツルのものなどを充分比較して見たのでないから確言は出來ぬがジャムプスキーはヒツコリーがないので勿論ノルウエーのそれより數段劣つて居るがクロスカントリースキーはこゝのものが全く優良の様に思はれる。

而も用材が安いので最優良のスキーでも出來上り七五マーク位であるから我國に輸入しようと思ふなら八五マークも出せば喜んで輸出してくれるだろうと思ふ。(八五マークは五圓弱)

併し、今迄芬蘭スキーも相當我國に來て居た様であるが其れがあまり使用されなかつたのは結局平地用のスキーを山地に使用せんとするので根本から其の型がちがつて居る

のである。而も我國の雪と此の國のそれとは全く異つて居るそれで少くも我國のそれに適する様に型を作り變へねばならぬ。

此の國のスキーは長さ八尺四、五寸から九尺位であつて巾は非常に狭く中央二寸、甚しきは一寸八分位、前後共二寸二分から二寸一分位である。

此の長い狭いので平地に非常の速度で滑走するので實際美事である。杖を思ふ様使ふて滑走するので杖の輕くて強いのをほしがられそれには竹が一番よいので竹を望んで居る事は非常のものである。併し現在ではデンマークの商人の手に一度入つてそれから輸入されるので此の國の商人の製品はあだかもスキー同様の價格をして居る。而も此の工場一ヶ所だけで一ヶ年に竹を輸入する數は四万本からだ云ふのだから全國を通じたら十萬本は下らないだろうと思ふ今年はこゝでFVSのコンダグレッツゲームがあり而も一週間後れてストックホルム、續てホルメンコーレンと云ふ譯なので選手連中はもう十月中旬から練習にかゝつて居る。自分も七日から「ラハテ」へ行て練習するつもりで準備して居るが何分ヘルシングフォールスはもう攝氏の零下



二十度「ラハテ」は二十五度位だと云ふので、コンナ寒さは初めての自分は冬の仕度するさへナカ〜大變である。

(十二月三日稿)

## 彙報抄録

### 通信

本原均氏より

○伯林を立つて十二時間急行するとコペンハーゲンに来ます。もう瑞典は對岸にあります。數日の滞在でマルモに渡りランドを経てストックホルムに行きます。ラハチーのコングレッツには客員としてでも参加したい希望、アマチユアの資格問題で花を咲かせるでせうから。

(コペンハーゲンにて)

○ヘルシングフォールスより諸兄に敬意を表す。

ホテルと停車場との間にある廣場にスキーを澤山賣つて居る。丁度日本で云ふ露店だ。外はソリとか箱、桶等の日用品を賣つて居る。長い短い材木屋見たいだ。

ヘルシングフォールスはいゝ町だ。今日は寒いけれど晴天だ。粉雪約一米、ラハチに向ふ一時間前。(一月廿九日)

—20° C. Relines Wetter. —

### 寄贈新著

スキーをはく人の爲に

鐵道省運輸局

スキーに關して、特に「初歩」を看板にしたスキー術の一般書めいた物が、やたらに書かれて、本屋の店に居並んで居るが、本著は手軽に出來て居て而も一寸滑りに行かうと思つてポケットの中に入れて汽車の中、電車の中で一寸讀んで要領をつかめる點で良い本である。本と云ふよりも日本の各スキー地のことが至極單簡明瞭に附加へてある點でまづ鐵道のスキー案内書と見た方が適當であらう。鐵道省でこんな良い思ひつきをされたのを見て如何にスキーが全國的に普及されて來たかがうかがはれる。(K 生)

# 全日本スキー聯盟主催 第四回全日本スキー選 手權大會

開催期日 一九二六年二月六日、七日  
開催場所 樺太豊原町外スキーヶ丘  
天候 兩日とも絶好、氣温零下三度雪質良好。

## 成績

### 第一日目

一〇キロレース(午前十時開始)

- 第一位 矢澤武雄(早大スキー部) 五五分四八秒
  - 第二位 松田幸義(綠陵俱樂部) 五六分二四秒
  - 第三位 吉田 清(早大スキー部) 五七分四九秒
  - 第四位 今井誠一(綠陵俱樂部) 五九分
  - 第五位 永田 實(早大スキー部) 五九分二四秒
  - 第六位 内山良夫(小樽水産スキー部) 六〇分二四秒
- 法政小松君第五位のタイムなりしも豫選主催団体の失態にて失格さる。同情に堪へず。

二五キロレース(午後零時開始) 一周コース

- 第一位 高橋 昂(早大スキー部) 二時一四分四六秒
- 第二位 岡村源太郎(北大スキー部) 二時一五分一九秒
- 第三位 後藤五一郎(妙高スキークラブ) 二時一七秒
- 第四位 松田正雄(樺太中央スキークラブ) 二時三分六秒
- 第五位 田村節郎(亞庭クラブ) 二時二三分一〇秒
- 第六位 竹節作太(早大スキー部) 二時二四分三五秒

二四キロレース

- 第一位 早大チーム(矢澤、吉田、竹節、高橋)

タイム 二時間三分三五秒

第二位 綠ヶ丘チーム

樺太亞庭チームは規定違反により失格せり。

ジャムブ競技

- 第一位 伴 素彦(北大スキー部) 一八點八〇
  - 第二位 緒方温光(同上) 一八點四六
  - 第三位 高田與市(大泊中學スキー部) 一八點四五
  - 第四位 小林辰雄(北大スキー部) 一七點八八
  - 第五位 杉村鳳次郎(同上) 一七點八六
  - 第六位 富井宜威(早大スキー部) 一七點三八
- 最長不倒距離記録保持者 秋野武夫(東藥) 二五米一〇

# 北大スキー部競技大會

二月廿一日午前十時より琴似ジルバアシャンツエ麓を中  
心として舉行、天候晴天絶好、雪質稍々良好

## 競技種目

デイスタンスレース、十八籽、四籽

ジャムプ競技 A級、B級

複合競技 ジャムプはジルバアシャンツエ中段よりス

タートせり。デイスタンスは十籽とす。

## 成績

### 十八キロレース

第一位	中村	二時一三分三七秒
第二位	徳田	二時二六分三五秒
第三位	坂本	二時三四分三八秒

### 四キロレース

第一位	宮本	二二分三〇秒
第二位	宮下	二二分三五秒
第三位	山田	二二分五〇秒

## ジャムプ競技

A級 第一位 緒方(温) 一二點五五

第二位 森 九點六八

第三位 村本 八點二二

最長不倒距離記録緒方(温) 二四米九〇 但し五〇種單

位とせり。昨年の記録二八米二〇は破れず。

B級 第一位 清水 一三米八〇

第二位 青木 一三米六〇

第三位 荒木 一三米二〇

時間の都合上B級のジャムプは三回飛躍距離の平均とせり

## 複合競技

成績 順位	姓名	ジャムプ 10キロ	法 績	定 時
1	杉村(藤)	16.04	20.00	18.04
2	緒方(温)	19.05	15.00	17.02
3	村本	17.30	15.00	16.15

最長時間 62分47秒。ジャムプは二回宛とす。

## 第九回國際スキー選手

權大會 (一九二六・三月五・六・七日)

我が全日本スキー職盟の代表者として、遙々フィンランドの地に赴かれ國際スキー聯盟會議に出席せられた木原氏今泉氏から二月七日附のお便りがありました。文中には次の様なことが申されて居りました。

國際スキー聯盟會議は仲々面倒な會議で随分お二人共奮闘せられた様です。今泉氏のお便りには採用語がドイツ語であつた爲殆んぎ木原さんが御一人で討論せられ、兎に角無事に責任を果して下されたとありました。如何なる事柄が問題になつたかは知りませんが、吾々日本のスキー界の存在を國際的に認めさすべく奮闘せられた御二人の爲に吾々は聯盟の一員として衷心感謝の意を表したいと思ひます

競技の成績 ジャムプでは昨年の勝者ノールウエーのタムス君が第一位で三八・五米を飛んだ相です。番外には四〇米飛んだとあります。成績點は不明でした。

複合競技では第一位ノールウエーの Grötningsbraten

第二位 H. Ericson 第三位も矢張りノールウエー人だ相です。

長距離、短距離競走は殆んどフィンランドの獨占だつた相で Reivolo と云ふ選手が兩方共優勝したらしいです。

氣温は毎日零下二十五六度だつた相です。こんなことを聞くと樺太の氣温などを問題にして居る様では、未だいけないと思ひます。(廣田生)

## 大會餘談

◇第四回全日本スキー選手大會も目出度く遙々樺太にまで持ち行かれ大過なく、しかも好記録を残して終了を告げしことは本邦スキー界の爲めに敬すべきことなり。

◇あの大會が彼程無事に了せしことは天の賜物によりたるは勿論なれど、樺太全島の人達の全く惜しみなき奉仕的偉力によりしことも勿論なり。あの大きな人爲の後援なりせば、恐らく彼程の成功を修め得ざりしならん。

◇會長の出席されしことは、又あの會を一層意義あらしめしものなれど、各地の加盟団体よりも、役員に多數わざ

く出席されしことも、大いに大會を意義あらしめしものなり。文字通りの一致協力なり。

◇あの大會に關する詳細なる事柄は三月の種々の運動雜誌に發表さるゝならんも、その發表も見ず大會レコードのみを見て盛んに音なしの大鼓をドンドコ打ち社會の注目をひかうとし、却て自己の智識の貧弱さをさらけ出せし程の勇敢なる大鼓打ちもありし由、曰く「ジャムブは、スキ一の余技なり」と云ふが如き。ジャムブの成績を大問題にしつゝ、ジャムブが余技なりとは解せぬ議論なり。

◇地方的感情の未だぬげざりしは詮方なきも、より以上觀衆に洗練されし氣持こそ望まかりし。

◇競技場全般の設備其他につきては、聯盟にも負ふべき責任ありしも、競技者にも責任あるべし。

◇競技規定内容を精讀せず、競技に参加せし選手あり。オミットされし選手やチームのありしはお氣の毒とは云ふべくも、要するに身から出し錆ならずや。

◇何處の某氏の投書ならん。東日某日の「スキー大會の殘した問題」てふ記事中に聯盟の廣田君責任上シャンツェを飛び易く、そして立ち易く修理せしに、地元の樺太のジャムバアが其爲に非常に不利に陥り悲惨な立場に置かれた

と堂々と發表せられしが、一体聯盟の競技會は地元の選手を特別に優遇すべきものならんか。

◇尙又ジャムブ成績を評するに、シャモニイ大會を引合ひに出されしは誠に大出来なれど、ちと問題違ひの感あり。無責任にして時間的觀念のなきもの世になかくあれど、この一方の大將こそ語詞なり。「餘談」「漫談」よく用ふ。されど此語時々眞理を吐くこそ値打ちあれ。



スキー並 附屬品

製作 販賣

••(呈カタログ)••



札幌

小谷運動具店

電話 一五六八番  
振替 七九六四番

優秀なるレコードは  
優秀なるスキーに依る!!

全國有名店に有り



斯界第一  
大量製産

ツバメ印スキー



製造元  
札幌市

中野商店

スキー部

GET SUPERFINE SKEES.  
AND MAKE AN  
EXCELLENT  
RECORD.



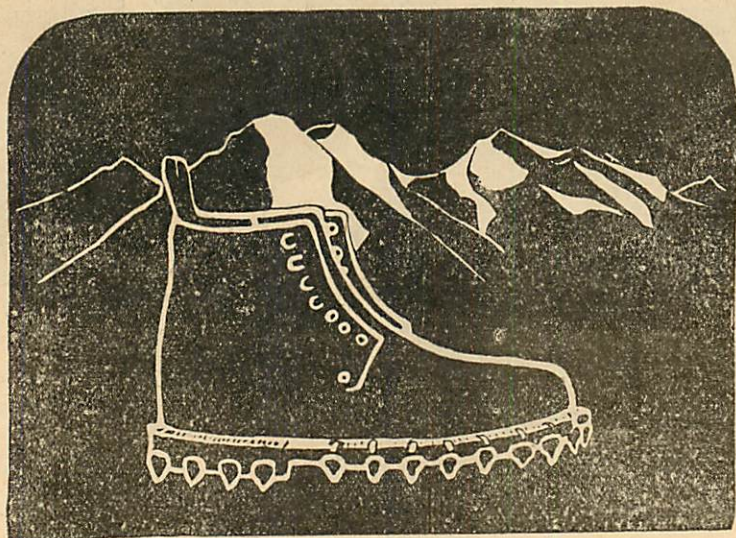
優秀ナルスキート其用具

小樽

梅屋運動具店



第二回畜産工藝博覽會於  
一等賞金牌受領



# 登山靴とスキ一靴

.....

東京市本郷區四丁目角

## 太田屋靴店

電話小石川四七一二番

振替東京六一二七番

◆山とスキーの會は北海道帝國大學文武會スキー部の有志

が、此の雜誌を發行する爲に作つてゐる會です。

◆スキーを研究せられる人、登山に趣味を持たれる方が一人でも多くお読み下さることをお願いいたします。

◆山岳及びスキーに關して何なりとも御寄稿下されんことをお願します又印畫の御惠送を切望致します。原稿紙は御申越次第お送り致します。

◆原稿は、。を一字とし、行を更めるときは一字下げること。

◆記事中の數量は全て、C・G・S・系によられん事を望みます。

◆雜誌代金に就て一應下記の諸項を御承知下さい。

◆本會より發する電信略號を「ヤマ」として居ります。

### 定 價 金拾錢

\*前金御申込か、現金でなければお渡しいたしません。

\*御送金はなるべく振替にてお願致します。

\*六冊分前金拂込の方には送料を頂きません

\*前金の切れた時には最後の分の包装にその旨記します。次の御送金あるまで配本を見合せます。

\*本誌は營利的の刊行物ではありません。紹介、縁故の有無にかゝらず雜誌の代價は頂きます。

大正十五年二月廿八日印刷  
大正十五年三月一日發行

(毎月一回一日發行)

編輯者 相 川 正 義

印刷兼 發行者 廣 田 戸 七 郎

札幌市北一條西二丁目

印刷所 札幌印刷株式會社

札幌市北六條西六丁目

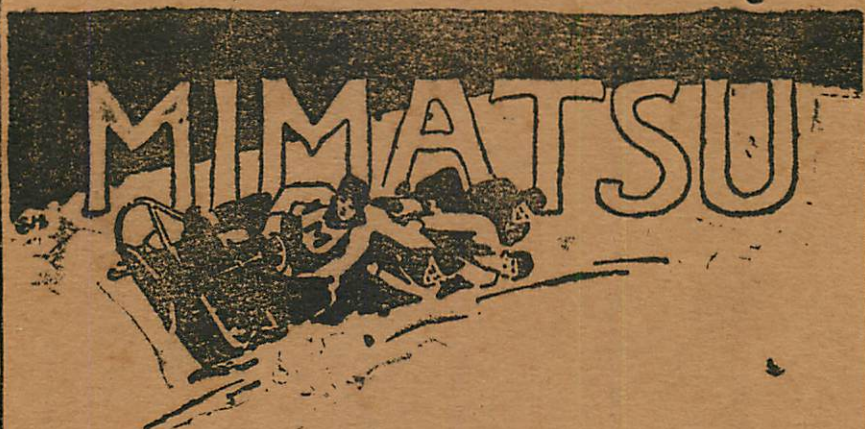
發行所 山とスキーの會

振替口座水樽八四九五番

La Gazeto  
de la  
Monta kaj Skia Klubo

No. 58. Marto 1926. Sapporo. Japanujo.

The Leading Winter Sport House,



美滿津特製

慶大山岳部、學習院山岳部、早大スキー部

一高スキー部

帝大山岳、スキー部御用

スキー及びビンディング

ホッフスレー

スレッチとトボーガン

スノーシュウ



冬期登山用具各種

ウキンター・キャンピング用具

フキギョア・ホッキー・スピード

スケート

アイス・ヤット等

合名會社

美滿津商店

東京・本郷・赤門前

電話(小石川)八四五・二〇七一

大正十五年七月廿七日第三種郵便物認可  
大正十五年二月廿八日印刷納本  
大正十五年三月一日發行

山とスキー 第五十八號

定價參拾錢